

すぎたに

根獅子小学校だより

【校訓】「やさしく」「かしこく」「たくましく」
2025. 5. 23 文責:校長 中島 祐治
平戸市立根獅子小学校(平戸市根獅子町 181)
TEL0950(22)9233/FAX0950(28)1020
<https://www.city.hirado.nagasaki.jp/kurashi/school/neshiko>

根獅子小最後の運動会は大・大・大成功！



心配された天気も回復し、5月18日(日)に運動会を開催しました。今回は特に、閉校を前にした運動会ということで、町民の皆様がたくさんご来場いただき、そして盛り上げていただいて本当にありがとうございました。



子供達は14プログラム中10種目に出場するという、大変過密なスケジュールでしたが、最後までケガなく元気に参加することができました。これもひとえに保護者の皆様、地域の皆様のおかげです。

今年は最後の運動会ということで、子供達だけの種目とは別に、来賓・敬老種目として子供たちとのじゃんけんゲーム、消防団・卒業生によるリレー、全員参加しての根獅子小〇×クイズを行いました。学校の運動会だけではなしえない、ある意味町民運動会ともいえる内容でした。種目を通して、全体が和気あいあいとした雰囲気に入れ、ほほえましい場面がたくさん見られました。これにより、子供達と地域の皆様とのつながりがさらに密になったのではないかと思います。今年度で根獅子小学校は閉校しますが、根獅子魂は永遠に不滅ですね。今年度末まで、子供たちと共に思い出に残る日々を過ごしていきたいと思します。今後ともご理解ご協力をよろしくお願いいたします。



今月のひとりとご(日常の当たり前に感謝する)

今回は手前味噌ながら私の病気克服法を紹介します。父親は高血圧家系、母親は糖尿病家系。(祖父母の代から、心不全、糖尿病、脳溢血、精神疾患、高血圧でペースメーカー、人工透析、数えればきりがありません。)その病気だらけの家系で、私もいくつかの病気を患ってききましたが、すべて克服してきました。胃炎、胃潰瘍、慢性前立腺炎、胸腺腫などです。慢性のものもあり、お医者さんから一生薬漬けだよと言われたこともあります。いずれも完治しました。慢性前立腺炎の時は、下腹部がうっ血し長時間座ると具合が悪くなるため、血流をよくしようと白湯健康法と称して1日2リットルのお湯を毎日飲んだこともあります。少しは効果がありましたが、すぐには改善しませんでした。ですから、なぜ自分がこんな病気にならないといけないのか、なぜ治らないのか、なぜ正常に働いてくれないのか恨めしい気持ちになっていました。

そんなある日、ふと思ったのです。胃や腸、前立腺などの臓器は、その病気になるまでは正常に働いてくれていたのだと。それなのにそれを忘れて病気になった瞬間から責めたら臓器も

たまったものじゃないと。臓器は自分の体の一部であり、それを責めるのは自分を責めることになるのだと。それ以来、病気になったときは臓器に対して今まで正常に働いてくれてありがとうという感謝の気持ちをもつことにしました。患部を触りながら「ありがとう」と思うようにしました。すると、不思議なことに日々病気が薄らいでいくような感覚になってきたのです。それから少々時間はかかりましたが病気は完治しました。たまたまかもしれません。しかしながら、このことを通して感謝することの大切さを痛感することとなりました。今まで自分がいかに感謝をしてきていないか。自分の力でここまで来たと思っていないか。病気によって気づかされたのです。反面、病気にならないと気づかない自分とは何なのかとも思いましたが。健康な時ほど感謝をすることが大切なのでしょう。毎日の当たり前こそ感謝ですね。

今月のジョーク講座

- ・六歳の息子に、「好きな女の子は誰？」と聞いた。教えてくれないので、クラスの子一人一人の名前を言ってみた。「違う」「違う」と言っていたのに、ある女の子のときだけ、「教えない！」に変わった。
- ・車で出勤する夫を見送ろうと思って外に出ると、夫は車の中から投げキッスをしてくれた。うれしく思った私が投げキッスを返すと、夫は外に出てきて、「何やってんだよ、タバコだよタバコ」
- ・弟は動物園でずっと猿を見ていたことがあった。理由は、人間に進化する瞬間を見なかったからだそう。
- ・初めて飛行機に乗った友人に、「飛行機混んでいた？」と聞いたら、「立っている人がいなかったの、そうでもなかった。」との返事だった。



子育ての知恵（親、大人としての役割・心構え編）

○アダルトチルドレンの問題・・子供を引きずったまま大人になってしまうアダルトチルドレン。子供時代に我慢させられた「子供の欲求」を抱えたまま大人になるので、何歳になっても折に触れて子供の欲求が顔を出す。「私を安心させて、喜ばせて」という子供の欲求を、大人になってから自分の子供にぶつける。そして、自分の意に沿わないと怒ったり叱りつけたりする。このような親子逆転現象が機能不全家族の特徴。

○新しい言葉に過剰反応しない・・キー・コンピテンシーだろうが、21世紀型スキルであろうが、非認知能力やら社会的情動スキル（ソーシャルスキル）であろうが、必要なものは全部もともと子供に備わっている。原始人の時代から人間が意識せずとも発揮してきた複雑な能力を、細かく切り分けて、それぞれに名称をつけただけ。牛の体の各部位にハラミとかロースとかカルビとか、人間の都合で名称を付けるようなもの。人間の体でも、健康のためには大臀筋を鍛えるのが大切だとか、インナーマッスルを鍛えるのが重要だとか、いろいろ言われるが、全部連動しているので、それぞれ大事に決まっている。背筋力が強い人もいれば、足腰の柔軟性に優れている人がいるなど、人それぞれ差があるが、それこそ個性。それぞれの個性を生かして社会の中に役割や居場所を見つければいい。

○子供の身体能力を高める遊び・・結局のところ大昔から空き地で子供たちが勝手にやっていた遊びが最高の体育である。木登り（自分の体重を支える筋力や柔軟性、さらにはどこにどう足をかければ高く登れるかを察知する空間認知能力が鍛えられる）、相撲（足腰の筋力が鍛えられることはもちろん、相手の力を受け止めたり受け流したりという力加減や反応能力、転んだ時の受け身の練習にもなる。何より、重さから温かさ、硬さ、においまで、様々な人間の体の質感を全身で学ぶことができる。）、鬼ごっこ（足の速さや瞬時に方向を変える俊敏性等の訓練になる。相手の走る速度も感じながら、逃げる方向や速度を決めることは、非常に高度な身体活動である。)